

市長	副市長	教育長	教育次長	課長	館長	課長補佐	係長	記録

【所属名：教育委員会文化振興課（博物館）】
【会議名：糸魚川市博物館協議会 専門部会】

開示
一部開示 (理由: 条例第 条第 号 該当)
不開示
時限不開示 (開示: 年 月 日)

会 議 録

作成日 平成 27 年 4 月 6 日

日	平成 27 年 3 月 30 日	時間	14:00 ~ 16:50	場所	フォッサマグナミュージアム 研修室・展示室
件名	議題(1) リニューアルの基本的な変更点について (公開) 議題(2) 展示室視察 (公開) 議題(3) 意見交換 (公開)				
出席者	【出席者】 4人 専門部会 棚座委員 天野委員 大塚委員 松岡委員 【欠席者】 なし 【事務局】 5人 博物館 田村館長 宮島館長補佐 竹之内館長補佐 杉野業務係長 茨木主査				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	0人

会議要旨

1 開会 (14:00)

【事務局】 館長あいさつ

【部会長】 部会長あいさつ

2 議題

(1) リニューアルの基本的な変更点について

【事務局】 リニューアルの基本的な変更点について説明。

(2) 展示室視察

【事務局】 展示コーナーごとに担当学芸員が説明し、質疑。(以下の記述は質問があった個所のみ)

プロローグ「ヒスイ峡」「奴奈川姫の物語」

第1展示室「魅惑のヒスイ」

第2展示室「ヒスイの歴史」「実験コーナー」「地下深部の石たち」「糸魚川の鉱物」

【委員】 中国ではヒスイはずっと使われてきたのか。

- 【事務局】 中国ではヒスイの使用は250年ほど前からで、歴史は浅い。
- 【委員】 ポリタングステン酸ナトリウムに入れて沈む他の石は何か。
- 【事務局】 角閃石は沈む。密度2.7くらいなので長石は沈む、方解石は微妙。
- 【委員】 (手で持って重さを比べる実験装置は)石の10cmキューブにした方がわかりやすい。治具の重さを感じてしまって差がわかりにくい。

第2展示室「石のできる場所」

- 【委員】 壁面の図の、マグマが生成する場所がおかしい。
- 【事務局】 図は模式的なものである。
- 【委員】 この部分(浅海の堆積岩の層の角度)が気になる。
- 【事務局】 もっと水平に近いほうがよかったか。
- 【委員】 放散虫の図が放散虫らしくない。Silicofragellates(珪質鞭毛藻)のよう。楕円形のはゾウリムシのよう。

第2展示室 ワイヤで吊り下げた擬岩

- 【委員】 1個の重さはどのくらいか。
- 【事務局】 46kgある。

第2展示室「青海石灰岩」 茨木主査

- 【委員】 最近、3Dの映像投影で生物が泳ぐような展示がある。
- 【委員】 青海にあった時と同じか。
- 【事務局】 照明装置を新しくし、コケムシ、二枚貝、三葉虫の模型を新たに作成した。
- 【委員】 ジオラマの前のパネルのあたりが暗い。天井から照明が当たるとよい。

第2展示室「土倉沢石灰岩」 茨木主査

- 【委員】 土倉沢石灰岩の化石の、生きていた当時の姿がわからない。
- 【事務局】 イラストや模型などを追加すればよいか。
- 【委員】 復元図があるとわかりやすいのではないか。
- 【委員】 土倉沢石灰岩のサンゴについて、もっとわかりやすい図を付ける、2種の説明があるラベルは2つに分ける、化石に印を付けるなどしたほうがよい。
- 【委員】 (土倉沢石灰岩の、ケース入りの標本も)復元図を付けたほうがよい。
- 【委員】 土倉沢石灰岩の化石のグラフィックパネルの用語に不一致があり、ふつうの人にはわからない(「サメ・ギンザメ」と「軟骨魚類」)。

第2展示室「日本の石灰岩」 茨木主査

- 【委員】 日本の石灰岩の図について、トラベルタイムの説明があまり入っていない。例えば飛騨の石灰岩はかっこ付きで大理石と入れるべき。年代は変成年代なので原岩はもっと古い可能性がある。
- 【委員】 石灰岩の時代の区分が一部重複している。
- 【事務局】 地質帯の区分でわけてあるが、地質帯の区分名ではわかりにくいので年代で表記してある。

【委員】 飛騨帯が20億年というのは乱暴。20億年前の地層に3.6億年前の石灰岩があるというのは見学者が混乱する。

第3展示室「ジュラ紀の世界」

【委員】 (壁面のイラストの) 首長竜が水面からこんなに頭をだしていたのか。

【事務局】 図鑑をもとにしてある。

【委員】 最初のパネルに来馬層群と手取層群の名が出てくるが、その後のパネルに手取層群の名が出てこない。

【事務局】 化石の名前も貼っておいたほうがよい。

【委員】 礫岩中の化石は印が付いているものだけか。

【事務局】 他にもあり、ルーペで探してみる、という趣旨の展示であると、ラベルに書いてある。

【事務局】 サングの化石が形を保ったまま含まれているが、どのような堆積環境が考えられるか。

【委員】 ジュラ紀の来馬層群かどうかはまだはっきりしていない。

【事務局】 露頭が未発見である。

【委員】 (リップルマークの標本を見て) このような層をよく探せば鳥の足跡などが見つかるかもしれない。

第3展示室「フォッサマグナシアター」

【委員】 シアターの左手前にあるモニタの画像について、日本列島が大陸から離れる前の図から始めたほうがよい。

【委員】 展示ケース内のシロウリガイの標本は、新種として記載したのでラベルを修正してほしい。

【委員】 (フォッサマグナシアターの) プロジェクタはどこにあるのか。

【事務局】 壁面のスクリーンについてはプロジェクタは裏から投影している。床面はモニタになっている。

第3展示室「フォッサマグナ 裂ける 沈む 埋まる」

第3展示室「ナウマン博士の部屋」

第4展示室「変わりゆく大地」「マイコミ平」「焼山」「地震」

【委員】 (焼山の映像を見て) 同じマグマの量なら、山体崩壊する水蒸気爆発のほうが恐ろしい。セントヘレンズのように山体崩壊する場合もある。焼山の噴火の写真には年号を入れてもいい。

【委員】 (地震の映像を見て) 地震と断層の因果関係が逆になっていないか。

【事務局】 最初に、断層が動いた時の揺れが地震だと説明している。

【委員】 地震が繰り返し起こることが説明されていない。

第4展示室「日本の高峰30座」

【委員】 石の番号は高い順か。

【事務局】 高い順である。

第4展示室「まわるミュージアム検定」

【委員】 皿の色はどうなっているのか。

【事務局】 ヒスイの問題はグリーン系、フォッサマグナは茶色・オレンジにしている。

第5展示室「魅惑の化石」宮島館長補佐

第6展示室「魅惑の鉱物」宮島館長補佐

【事務局】 (先ほど梶座先生から指摘があったが) 隕石の展示はなくなった。他にも展示できていない標本を、ケースを足して展示する。恐竜のフン化石はガイドさんから展示してほしいと強い要望がある。

休憩コーナー「サヌカイトリソフォン」宮島館長補佐

16:40 展示室視察終了、研修室に戻る。

(3) 意見交換

【委員】 展示室内でいろいろな意見が出たが、展示の修正は可能か。

【事務局】 自分たちで気付いている微修正、小修正もある。予算をつけて修正していかないといけない。

【委員】 大学生や地学が好きな高校生が見ても勉強になるというスタイルに変わっているので、説明は誤解がないようにしないといけない。各部屋の展示の隠れたつながりが理解できるように、説明の深化が必要。今までのようなただの観光で来る方ではなく、ジオパークに興味を持って見学に来る人を前提に、ありがちな誤解が解けるように。

【委員】 次回までに、修正原案ができてることが望ましい。大学生や高校生から、説明が古いと思われるのは悲しい。

【事務局】 今年の地質学会(信州大学で開催)で巡検のコースに糸魚川は入っているか。

【事務局】 予定されている。

【委員】 専門家向けにリーフレットを作る手もある。

【事務局】 展示解説書を作るのは来年か。

【事務局】 平成27年度の予算に解説の冊子が計上されている。

【事務局】 M&M8(博物館関係者・鉱物研究者の国際会議 Museums & Mineralogists) 2016年の糸魚川招致は、中国の長沙市に僅差で負けた。次に呼べるのは直近でも8年後になる。

【委員】 IPC5(International Palaeontological Congress)の2018年横浜の招致はパリに負けた。放散虫の国際学会(InterRad)は、2017年10月に新潟で開催される。

3 その他

なし

4 閉会

【事務局】 宮島館長補佐あいさつ

(16:50 終了)

以上